

琉球大学学術リポジトリ

与那国と畜産

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日越, 国吉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20215

与那国と畜産

沖縄群島中、与那国だけは長い役人並びに教職生活を通じて、一度も土を踏んだ事のない唯一の町村であったが、1959年10月の第三回鹿児島大学と琉球大学の共同学術調査の機会に一生の願いがかなえられたのは幸であった。

与那国島は石垣島へ68マイル、台湾基隆へは83マイルの洋上の孤島であるが、快晴の日には台湾島が望見出来るとの事である。吾々は滞在中にその機会には恵まれなかった。

1959年5月現在の調査で戸数872、人口4,733(男2,375、女2,358)で女護が島の伝説に似ず男女殆んど同数である。島の北岸東寄りの祖内部落に町役所があり、戸数約550戸を有し、小、中校、郵便局、測候所その他の施設があつて文化の中心をなし、部落内は割に整つております。戦前那覇、首里、石垣等に見られなかつた様な良材を使った住宅が戦災を受けずに残り、落付きが見えた。西北端の久部良は漁港で発動機

船も十数隻繫留され、漁期の活気が察せられた。戸数約60を有する部落は戦災を被つており、住宅の復旧には時日を要する様である。比川は南岸の中央に在る約60戸の普通に見られる形の農村部落である。

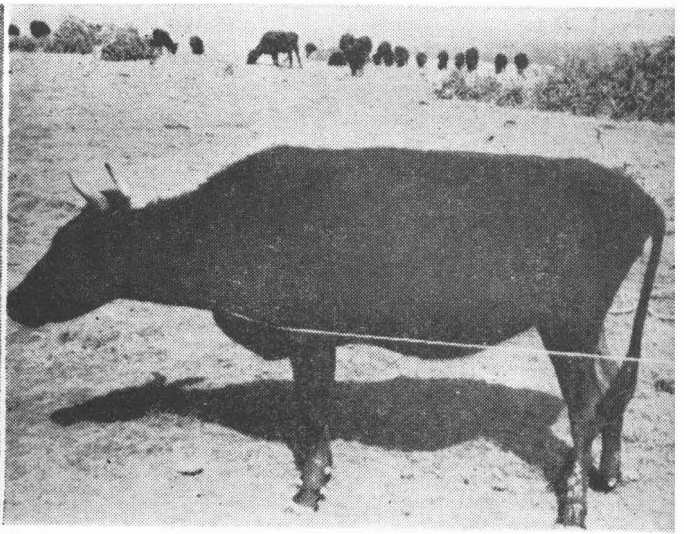
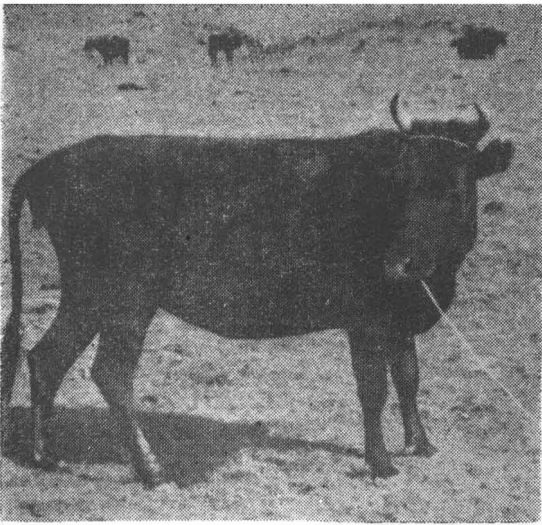
島の地目別面積

地目別	面積	比率
総面積	303.238アール	100%
宅地	28.500	9.0
耕地	72.335	23.8
(田)	26.880	8.8
(畑)	45.455	15.0
原野	79.850	26.3
山林	112.275	37.0
牧野	1.425	0.4
その他	8.855	2.9

農家戸数1戸当り耕地約9.7反、山林15.1反、原野約10.7反で他の町村の平均以上あるから農業経営も楽であるべきであるが、農道の不備から部落外れの耕地は荒廃気味であり、海岸線の防潮防風林の整備がいたつて粗末のため潮害が大きく、家畜は豚以外は半数が牧場に放牧されているので自給肥料の生産も僅少である所から農産物の反当取量も甚だ低い。永田は二期作田は約五割程度であるが、戦前畜手した貯水池が再び手を付けられるなら面目一新して増収が期待出来る。

下は牧場であつて、在来牛の群





家畜頭数

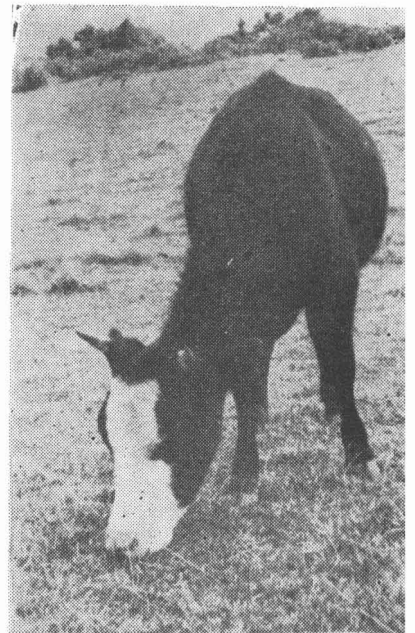
牛	水牛	馬	豚	山羊	鶏	農家戸数
310	40	404	822	1374	2129	740

牛馬で700余頭もあるが殆んどが在来種であり、半数以上（主として雌）が放牧されているので農業と直接のつながりを持つものは半数で豚舎以外の畜舎は全く不備である。

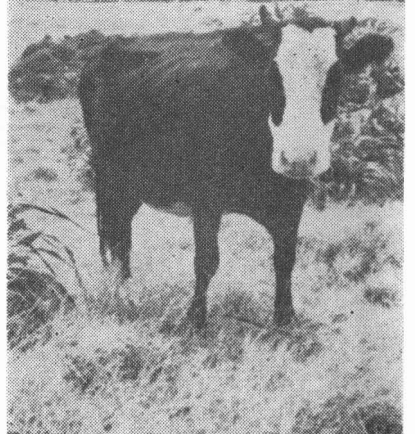
馬は1、2米以下の小型馬で資質体型も余り良くなく、使役能力も低いようであるが、島内ではこの種在来馬が使役上必要だといわれる。すでに宮古島、石垣島では小型在来馬の繁殖はなく絶滅の悲運に在るが、与那国では在来種が必要とあれば天然記念物に指定、政府で保護を加える一方、在来種中から優良馬を選定し、改良増殖の方途を講ずれば日本本土の遊園地、動物園等から子供の乗用としての希望も多いようであるから輸出用としても有望と思う。雑種馬も少々飼われているが宮古、石垣方面から移入されたものである。

牛も全々在来種で体長、体幅、体深小さく、資質、肉質、使役能力ともに劣るもので、畜牛資源の少い沖縄では早急に改良増殖の手が打ち立てらるべきである。現在のままの牛では移出するにしても、有利のものとは考えられない代物である。特に珍らしく感じたのは額、体下部等に白斑のある牛が多い事で、沖縄では竹富町黒島の台湾渡来のホルスタイン種の血を受けた在来牛系統にだけ見られたのであるが、島の古老に聞いても、自分等の子供時代からいたとの話である。あるいは古い時代に台湾からホルスタイン種が移入し交配されたのではあ

るまいか。豚は雑種で品種も雑ばくであるが、魚の副産物も多いし、品種の改良と飼料配合の適正を期するならば品質のよいのが生産されるものと期待する。山羊も在来種のみである。



(右) これ等が何時何処から来たかも知らぬ
ナゾの白斑のある在来牛
(上) 側面から見た在来牛で特に尻の突出が目立つ。

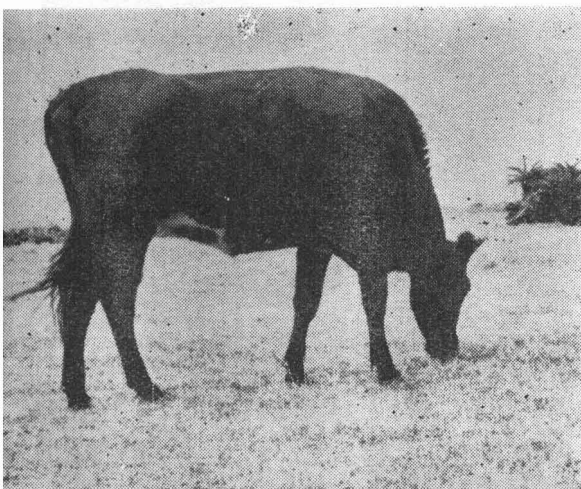




(上) 後方から見た在来牛
で後駆が発達せぬ上
にアシの貧弱が目立
つ。(右)

(下) 在来牛にしては割に
よい方でしょう

牧場は東牧60ヘクタール、北牧86ヘクタール、南牧141ヘクタールの三か所で合計290ヘクタールあるが、夫々相当面積に互り、アダンが繁茂して草生面積を狭めている。草生地も短い芝地が多く何を食って生きているのか不思議に思われる状態にあり、それにダニも寄生しているので一層家畜の発育を阻害している状況にある。放牧の牛馬は全部雌で交配は牧場外からの侵入雄によって行われていることは現代のこととも思われない経営である。面積並びに草生状況に比して放牧頭数が余りに過剰であるので、早急牧場内の防風、木かげ用以外のアダンを除去し草地を拡張耕起して牧草種子の播種、移植等により草生を改良すべきである。出来れば牧場内を数区画に分け、順回りに家畜を移動してその後耕起、播種と前記の方法を採れば牧場の改良とダニ駆除が同時に成功しよう。さらに草生の程度に応じて放牧牛馬の頭数の増減を考えるべきである。



島には施設を行えば立派な港になる久多良と波多港がある。現況では400以上の船舶の出入は困難であるから天候不良の季節には航行が断絶する。生活必需品も品切れする。外部からの出入もない。物の動きは止る。島の生活にうおいがなくなる。男女青年の離村が多くなる。現に吾々はほとんど青年を見かけなかった。斯る状態では農村の発展に大きい期待は持てなくなる。航路、港湾施設は国道道に相当する。政府の助成によって施設を改善し、安全に航行出来てこそ人の出入も多くなり物資の交流にも便し文化も発展することであろう。台湾と交流出来た時代は生産物の販路も近く、出稼も便で送金も多く、島人は豊かな生活が出来ていた事は祖納に残る立派な住宅がこれを証明している。

船舶港湾の不備で渡島も危険であり、旅行の日程も予定されないでは政府機関からの出張も稀で、産業開発の指導も全く手も付けられてないかに見える。島の人達も政府機関を頼りにしていないかと思われる。事実畜産面から見ても与那国を知って居る人は殆んどないから、手を打つ術もなかったであろう。

前述からみると畜産方面は全々駄目の感も受けるおそれもあるが、今まで畜産方面では余り指導援助を受けていないだけに、今後の指導援助の如何によっては驚くべき効果を果すであろう。

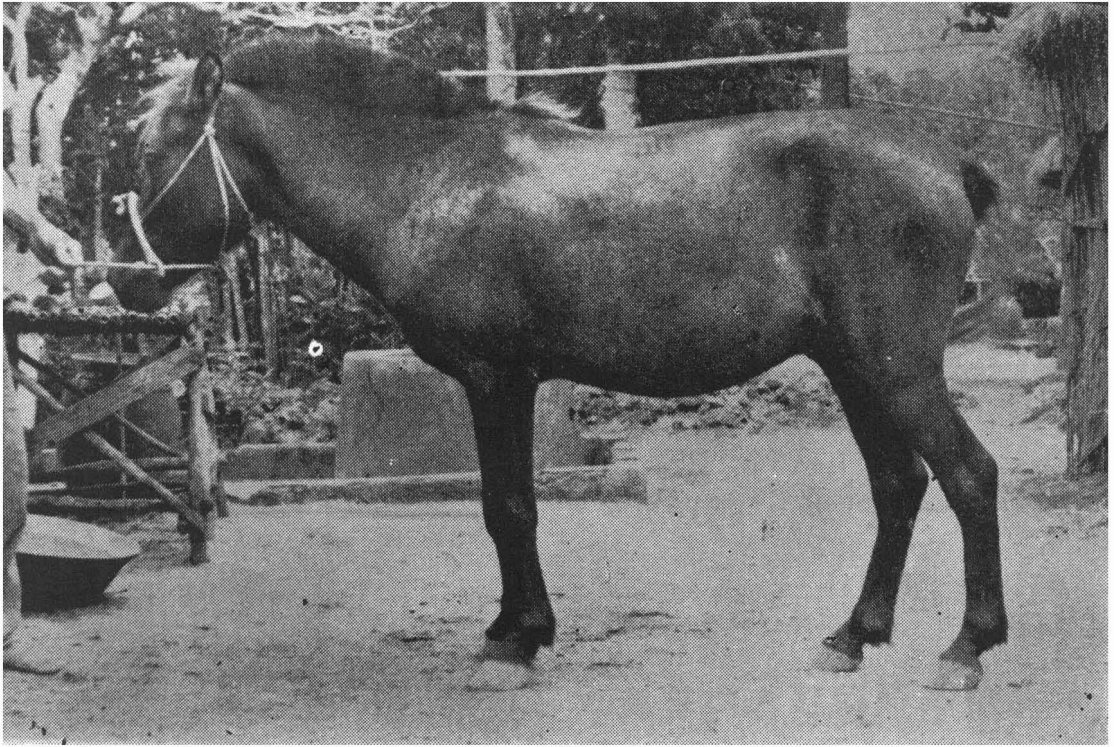
先ず指導者を送り、種畜、牧草種子、種苗等をどしどし送らなければならない。牧場は荒廃しているが路傍のこれは在来牛にしては割によい方でしょう。

草は膝を没する程である。草刈の労をいとわず、雌牛を畜舎に飼育管理し、適期に資格のある種雄に交配し、未だ使役するには若い家畜は良草繁茂する牧場に放って自由かつ適に運動させるならば、申し分のない良畜がどしどし生産出来るであろう。

与那国の自然は洋々たる紺碧の大洋を望み、沖縄島に見られない広々とした耕地が広がっている。230余米

の宇良部岳、ゆうゆうと牧野に草を求める牛、馬、山羊の自然の姿は画面に遊ぶが如し。又島の雄大な海岸線に亘って伝説に富む雄大な絶景が見られる。

将来は大きな希望の持てるこの島を訪れ、得る事が多かった事を喜び、今回の調査団一行に至れり尽せりの便宜を供与して下さった町当局に深甚の謝意を表する次第である。(日越国言)



これ等が体の小さい与那国の在来馬。それでも島の人達にはなくてはならぬ農耕用、運搬用の動力である。「やあ坊ちゃん」とふり向いたあたりはまさにおとなしさそのものである。

